京都は「縄文魂」を受けつぐ！

—講演とシンポジウム

小国日本が世界の大国に伍してやっていけるのは
縄文以来の一万三千年の歴史があるからだ
京都の町衆はその縄文人の典型だった
私たちも縄文魂を受けつぎ京都を良くしよう

日 時　平成 24 年 **8**月 **11** 日(土) 午後 2 時～5 時(1 時半開場)

場 所　**キャンパスプラザ京都** 4階 第3講義室 (JR 京都駅西口ビックカメラ前)
京都府京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939

講 演　**京都は「縄文魂」を受けつぐ！**
上田　篤 氏(元京都大学・京都精華大学教授、西郷義塾主宰)

討 論　パネリスト
杉本　秀太郎 氏(国際日本文化研究センター名誉教授・芸術院会員)
池上　淳 氏(京都大学名誉教授・文化政策研究教育学会会長)
鈴木　三郎 氏(株　最上インクス会長・京都試作ネット相談役)
二之湯　真士 氏(京都府議会議員)

参考文献　『小国大輝論－西郷隆盛と縄文の魂』上田篤著　藤原書店刊(別売2千円)

入場料　無料

主 催　NPO法人国際縄文学協会
後 援　京都新聞社・京都新聞 COM

会場案内図(京都キャンパスプラザ):
京都駅中央口から西へ徒歩 3 分

問い合わせ・連絡先
NPO法人国際縄文学協会西日本センター
京都市下京区木屋町通松原下る 2 丁目下材木町 442-205
電話:075-744-0985　ファクス:075-744-0986
Email:jomonint@gmail.com
携帯電話:09055437852

原発がなくなったら電気はどうなるか？
円高がつづくと日本経済はどうなるか？
これから日本の税金はみな上がっていくのか？
京都を住みよい街にするにはどうしたらよいのか？

こういった疑問を解き明かそうとすると、いろいろな問題につきあたり、さいごは「日本の国の原点は何か？」というところにゆきつきます。そこで町屋研究の泰斗で「小国大輝-縄文に還れ」を主張する上田篤の話を中心に、京都のオピニオンリーダーによるシンポジウムをおこない、皆さんと一緒に京都の未来を考えたいとおもいます。ご期待ください。

――上田篤『小国大輝論― 西郷隆盛と縄文の魂』から

・・・今日、日本人を職業からみると「サラリーマン」が増え「自営業」が減ってきている。大会社をみてもこのところサラリーマン社長が増えて、オーナー社長は少なくなってきている。「なぜそれが問題か？」というと、組織人間であるサラリーマン社長はどんな優秀な社長でも、自分の在任期間中のことしか考えない。すくなくともそれが一番大きな問題であることはたしかである。だが、自立人間のオーナー社長は、つねに組織の将来を考える。ときには一時のことなど、たとえば現在の利益などかまっておられないことだってある。

そこが決定的にちがう。ために平時はともかく、現在のように明日何が起きるかわからないような「乱世」になると、またとっさに判断しなければならない「有事」のときなどには、どんな高学歴な人でもまた有名人でも、組織人間のリーダーは弱い、というか決断力がない。どうしていいかわからないのである。失敗ということが許されないからだ。失敗すれば即クビが待っている。とくに役人は絶対的だ。

とすると、組織人間というのはようするに「失敗できない人間」のことである。ところがそういう動乱や有事のときには、まったく無学でも無名人であっても、自立人間のリーダーは強い、決断力がある、欣然として事態に対処する。どういう結果であろうと、それを受けいれることができる。失敗も経験のうちだからだ。自立人間とは、ようするに「失敗ができる人間」のことである。そしてその失敗を乗りこえてゆく人なのである。

そういう自立人間の典型は、現在、企業のオーナー社長や、モノづくりの中小企業主や、各種職人や、商店主や、農家や、私塾の経営者や、言論人や、芸術家や、スポーツマンや、探検家や、そのほか組織社会にあってしばしばサムライなどと評される人々などが考えられるが、その原型は、かつて「農は百業の礎」といわた百姓にあり、さらにさかのぼれば「土地がない、資源に恵まれない、情報も少ない、そして自然災害だけがやたらと多いこの国土にあって、一万年以上にもわたり生きぬいてきた山海人、すなわち縄文人にある」とわたしは考えている。